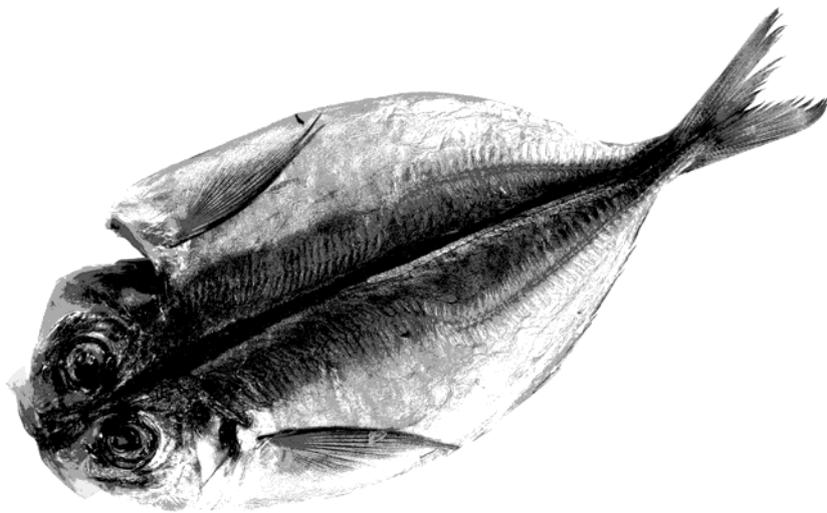


2014年度  
日本魚類学会年会  
プログラム

Program  
for  
the 47th Annual Meeting, 2014



期 日 : 2014年11月14日(金)~17日(月)  
場 所 : 神奈川県立 生命の星・地球博物館



日本魚類学会  
The Ichthyological Society of Japan

2014年度日本魚類学会年会実行委員会  
瀬能 宏(委員長)・萩原清司・猿渡敏郎・斉藤憲治

共催  
神奈川県立 生命の星・地球博物館  
横須賀市自然・人文博物館

協力  
国立大学法人 東京大学 大気海洋研究所  
独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所

#### 表紙のさかな

鱻の開き干し：開催地の小田原市は2001年3月、アジとメダカを市の魚に指定した。アジとはもちろんマアジのことで、主に定置網で漁獲されている(メダカはミナミメダカ)。腹から開いて塩水に漬け、天日で乾かした開き干しは絶品。

#### 2014年度日本魚類学会年会プログラム

---

|        |   |            |            |
|--------|---|------------|------------|
| 電子版発行日 | 2014年9月11日  | 9月30日(第2版) | 10月7日(第3版) |
| 編集者    | 2014年度日本魚類学会年会実行委員会   |            |            |
| 発行者    | 矢部 衛  |            |            |
| 発行所    | 日本魚類学会<br>〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5<br>(株)国際文献社内 日本魚類学会事務局<br>電話 03-3362-9742 ファックス 03-3368-2822 |            |            |

# 2014年度日本魚類学会タイムスケジュール

## 11月14日 (金)

12:00~14:30 編集委員会 (会議室, 2F)  
 15:00~17:00 評議員会 (講義室, 1F)

|             |                           |    |
|-------------|---------------------------|----|
| 第1会場        | SEISAミュージアムシアター           | 1F |
| 第2会場        | 講義室                       | 1F |
| 第3会場(ポスター)  | 特別展示室                     | 1F |
| 総会          | 15日11:15- SEISAミュージアムシアター | 1F |
| 奨励賞受賞講演     | SEISAミュージアムシアター           | 1F |
| 休憩室(オークション) | 実習実験室                     | 3F |
| 懇親会         | かまぼこの里 鈴の音ホール(バスで移動)      |    |
| シンポジウム      | 第1, 2会場(西側講義室, 東側講義室)     | 1F |

## 11月15日 (土)

12:45~14:15 自然保護委員会 (会議室, 2F)

|                                 |      |                     |       |            |       |                      |       |                             |       |            |                               |       |
|---------------------------------|------|---------------------|-------|------------|-------|----------------------|-------|-----------------------------|-------|------------|-------------------------------|-------|
|                                 | 8:30 | 9:30                | 11:00 | 11:15      | 12:00 | 12:30                | 14:30 | 15:45                       | 16:00 | 17:00      | 18:30                         | 20:30 |
| 口頭発表<br>第1会場<br>SEISAミュージアムシアター | 受    | 生態, 保全<br>1-6       |       | 休憩<br>15分間 | 総会    | 受賞者<br>講演            | 昼食    | 生態, 保全<br>7-11              |       | 休憩<br>15分間 | 生態, 保全<br>12-15               |       |
| 口頭発表<br>第2会場<br>講義室             |      | 分類, 系統, 遺伝<br>34-39 |       |            |       |                      |       | 分類, 系統<br>遺伝, 生物地理<br>40-44 |       |            | 分類, 系統<br>遺伝<br>生物地理<br>45-48 |       |
| ポスター<br>発表<br>第3会場<br>特別展示室     | 付    | ポスター展示              |       |            |       | コアタイム<br>奇数演題        |       | ポスター展示                      |       |            |                               |       |
| オークション<br>実習実験室                 |      | 高校生研究発表             |       |            |       | コアタイム<br>高校生研究<br>発表 |       | 高校生研究発表                     |       |            |                               |       |
| 入札受付                            |      |                     |       |            |       |                      |       |                             |       |            |                               |       |

懇親会  
かまぼこの里  
鈴の音  
ホール

## 11月16日 (日)

|  |      |                             |       |            |                             |                      |       |                     |       |            |                       |  |
|--|------|-----------------------------|-------|------------|-----------------------------|----------------------|-------|---------------------|-------|------------|-----------------------|--|
|  | 8:30 | 9:30                        | 10:45 | 11:00      | 12:00                       | 12:30                | 14:30 | 15:45               | 16:00 | 17:00      |                       |  |
| 口頭発表<br>第1会場<br>SEISAミュージアムシアター                      | 受    | 行動, 生<br>遺伝, 資<br>16-20     |       | 休憩<br>15分間 | 行動, 生態<br>遺伝, 資源<br>21-24   |                      | 昼食    | 生態, 遺伝, 教育<br>25-29 |       | 休憩<br>15分間 | 生態<br>遺伝, 教育<br>30-33 |  |
| 口頭発表<br>第2会場<br>講義室                                  |      | 分類, 系統<br>遺伝, 生物地理<br>49-53 |       |            | 分類, 系統<br>遺伝, 生物地理<br>54-58 |                      |       | 分類, 形態, 進化<br>59-63 |       |            | 分類<br>形態, 進化<br>64-67 |  |
| ポスター<br>発表<br>第3会場<br>特別展示室                          | 付    | ポスター展示                      |       |            |                             | コアタイム<br>偶数演題        |       | ポスター展示              |       |            |                       |  |
| オークション<br>実習実験室                                      |      | 高校生研究発表                     |       |            |                             | コアタイム<br>高校生研究<br>発表 |       | 表彰<br>式             |       | 高校生研究発表    |                       |  |
| 10:00 入札受付<br>12:00 開札<br>12:30 落札者発表<br>13:45 落札者受取 |      |                             |       |            |                             |                      |       |                     |       |            |                       |  |

## 11月17日 (月)

|                         |  |       |       |
|-------------------------|--|-------|-------|
| 第2会場<br>西側講義室           | 8:30   | 9:30  | 16:30 |
| 受付                      | シンポジウム<br>魚類における両側回遊: その生活史多様性と進化                      |       |       |
| 第2会場<br>東側講義室           | 8:00   | 9:00  | 17:00 |
| 受付                      | シンポジウム<br>魚類における適応と種分化の進化遺伝機構: 研究最前線と今後の展望             |       |       |
| 第1会場<br>SEISAミュージアムシアター | 11:30  | 12:30 | 17:30 |
| 受付                      | 公開シンポジウム<br>日本の外来魚問題の現状を考える:<br>外来生物法制定から10年で何が変わったのか? |       |       |

# 研究発表プログラム

## 口頭発表

(1演題の持ち時間は、発表12分と質疑応答3分の計15分、共同発表者があるときは<sup>○</sup>が演者)

### 口頭発表第1会場(SEISA ミュージアムシアター)

11月15日

午前の部 9:30-11:00

(生態, 保全)

- 1 09:30- 遡河回遊性魚類における生活史の雄多型と両性多型-II:カワヤツメはどのように両性多型か?  
<sup>○</sup>後藤 晃(北の川魚研)・山崎 裕治(富山大理)
- 2 09:45- 狭い農業用水路に定着した国内外来種ハスの生息場利用  
<sup>○</sup>栗田 喜久・鬼倉 徳雄(九大院水産実験所)・乾 隆帝(山口大院理工)
- 3 10:00- 飼育下における絶滅危惧種ウシモツゴの繁殖特性  
<sup>○</sup>宮西 萌・北川 哲郎・小田 優花・細谷 和海(近大院農)
- 4 10:15- 琵琶湖内湖の流入河川におけるホンモロコの産卵場所選択  
<sup>○</sup>亀甲 武志・石崎 大介・片岡 佳孝(滋賀水試)・甲斐 嘉晃(京大フィールド研)
- 5 10:30- 厚木市・多々良沢源流におけるホトケドジョウの生態2  
<sup>○</sup>住倉 英孝・勝呂 尚之(KWN)
- 6 10:45- 加古川水系の一湿地に生息する絶滅危惧種ホトケドジョウの成長と寿命  
<sup>○</sup>青山 茂(神戸市垂水区役所)・田端 友博・土井 敏男(神戸市環境局)・赤田 仁典(三重水産高校)

## 2014年度 日本魚類学会学会賞

### 日本魚類学会奨励賞 受賞講演

「東・東南アジアの淡水魚類多様性とその生息環境」

鹿野雄一 (九大決断科学)

日時 11月15日 12:00 — 12:30

場所 第1会場 (SEISA ミュージアムシアター)

### 日本魚類学会論文賞

「Predicting distributions of seven bitterling fishes in northern Kyushu, Japan」

鬼倉徳雄(九大院農)・中島 淳(福岡県保環研)・三宅琢也(三重大生物資源)・河村功一(三重大生物資源)・福田信二(九大院農)

「高知県横浪半島のサンゴ群集域にみられる魚類群集の季節的变化」

平田智法(宇和島市)・小栗聡介(高知大農)・平田しおり(宇和島市)・深見裕伸(京大瀬戸臨海)・中村洋平(高知大黒潮)・山岡耕作(高知大黒潮)

午後の部 14:30-17:00

(生態, 保全)

- 7 14:30- 温帯域である神奈川県金目川に定着した亜寒帯性魚類フクドジョウの生活史  
○島山 類(建設環境研究所)・北野 忠(東海大教養)
- 8 14:45- 水槽飼育下での長期観察によるメコンオオナマズ *Pangasianodon gigas* の摂餌周期における雌雄差  
○池谷 幸樹・波多野 順・国崎 亮・野口 亮太・須田 暁世・中野 大輝(アクア・トぎふ)・久米 学(岐阜経  
済大)・大原 健一(岐阜県水研)
- 9 15:00- 北海道釧路川の一支流におけるサケ科魚類イトウの繁殖生態  
○小宮山 英重(野生鮭研)
- 10 15:15- 西湖のクニマスの生態について  
○青柳 敏裕・岡崎 巧・大浜 秀規・谷沢 弘将(山梨水技セ)
- 11 15:30- 沖縄島における陸封リュウキュウアユの摂餌なわばりと背鰭形態の変化  
○堀部 翔(琉大院理工)・立原 一憲(琉大理)

休憩 15:45-16:00

- 12 16:00- スズメダイ科魚類の性転換様式: 雄性先熟, 雌性先熟, および逆方向性転換  
○桑村 哲生(中京大国際教養)・門田 立(水研セ西海水研)・鈴木 祥平(琉球大瀬底)
- 13 16:15- カジカ科スズメダイ *Vellitor centropomus* における体内配偶子会合型の生殖様式の再確認  
○古屋 康則・三橋 直哉(岐阜大教育)・安房田 智司(新潟大理臨海)・宗原 弘幸(北大 FS セ)
- 14 16:30- ニジカジカグループの分子系統と生殖関連形質の多様性  
○河相 吉紀・古屋 康則(岐阜大教育)・安房田 智司(新潟大理臨海)・宗原 弘幸(北大 FS セ)
- 15 16:45- 佐渡島産海産カジカ 9 種の産卵場所としてのホヤ種・カイメン種選択  
○安房田 智司(新潟大理臨海)・後藤 智仁(新潟大理生物)・古屋 康則(岐阜大教育)・武島 弘彦(東大  
大気海洋研)・山崎 彩(北大院環)・宗原 弘幸(北大 FSC)

11月16日

午前の部 9:30-12:00

(行動, 生態, 遺伝, 資源)

- 16 09:30- 沖縄島の佐敷干潟におけるマサゴハゼの生息環境と出現パターンの季節変化  
○國島 大河(琉大院理工)・立原 一憲(琉大理)
- 17 09:45- ハナハゼ *Pterotris hanae* におけるペアの配偶システムと群れ・単独での行動  
○木村 瑞紀(東海大院海洋)・中地 シュウ(黒潮生物研究所)・中野 正夫(sea horse)・赤川 泉(東海大海  
洋)
- 18 10:00- アカメ産卵回遊のアーカイバルタグによる追跡  
○木下 泉(高知大海洋研)・光永 靖(近大農)
- 19 10:15- 岐阜県のダム湖におけるオオクチバスの食性  
○淀 太我・野々目 亮(三重大院生資)・北村 浩昭・高倉 良太(テクノ中部)・中西 嘉人(中部電力)

- 20 10:30- サンゴ礁性ブダイ類の腸内細菌叢  
○馬淵 浩司・井上 広滋(東大大海研)

**休憩 10:45-11:00**

- 21 11:00- 南シナ海におけるアジ科魚類3種の遺伝的集団構造  
○武藤 望生・柿岡 諒(地球研)・Osman MUDA (MFRDMD/SEAFDEC)・Sukchai ARNUPAPBOON (TD/SEAFDEC)・Kamolrat PHUTTHARAKSA (EMDEC)・Arnold GAJE・Ramon CRUZ・Ulysses ALAMA・Rex TRAI FALGAR・Ricardo BABARAN(UPV)・武島 弘彦(東大大気海洋研)・本村 浩之(鹿大総博)・武藤 文人(東海大海洋)・石川 智士(地球研)
- 22 11:15- ヤマメ・アマゴの増殖には、稚魚放流, 発眼卵放流, 自然繁殖促進のどの方法が最も効果的か?  
○中村 智幸(水研センター増養殖研)
- 23 11:30- 沖縄島周辺海域におけるフエダイ属3種の年齢と成長, 成熟  
○荒木 克哉・立原 一憲(琉球大理)
- 24 11:45- 計数形質による日本海のアタタ系群解析  
○尾田 昌紀(鳥取水試)・甲本 亮太(秋田水振セ)・藤原 邦浩(水研セ日水研)

**午後の部 14:30-17:00**

**(生態, 遺伝, 教育)**

- 25 14:30- 魚類環境DNA用ユニバーサルプライマーの開発と次世代シーケンサを用いた環境水分析法の確立  
○宮 正樹(千葉中央博)・佐藤 行人(東北大)・福永 津嵩(東大院)・佐土 哲也(千葉中央博)・佐藤 圭一(美ら海財団)・源 利文(神戸大院)・山中 裕樹(龍谷大)・荒木 仁志(北大院)・岩崎 渉(東大院)
- 26 14:45- 福岡都市圏主要5水系における希少魚類保全上の重要地  
○鬼倉 徳雄(九大院農)・中島 淳(福岡県保環研)・乾 隆帝(山口大院理工)・兼頭 淳((株)建技研)
- 27 15:00- 神奈川県川崎市生田緑地内ビオトープにおけるホトケドジョウ *Lefua echigonia* の復元状況に関する報告  
○榎本 亜矢(生田ホトケドジョウ)・勝呂 尚之(神奈川県)
- 28 15:15- 神奈川県に生息するヤマメ *Oncorhynchus masou* の 遺伝的構造と在来個体群の推定  
○金子 裕明(KWN)・勝呂 尚之(神奈川県水産課)・二河 成男(放送大学)
- 29 15:30- チチカカ湖産カラチ類 *Orestias luteus* から検出される形態変異  
○井口 恵一郎・佐古田 雅哉(長大院水環)・タムタウオンワニッチ サリニー(マヒドン大)・高橋 鉄美(遺伝研)・棗田 孝晴(茨城大教育)

**休憩 15:45-16:00**

- 30 16:00- ハゼ類を指標とした河口干潟のハビタット類型と形成・維持メカニズムの解明  
○乾 隆帝・赤松 良久(山口大院理工)・小山 彰彦(九大院農)
- 31 16:15- 近畿地方周辺におけるウキゴリとスミウキゴリの分布と遺伝的多様性  
○原 仁志・平井 規央・石井 実(大阪府大院生命)
- 32 16:30- 人工構造物周辺における淡水カジカの移動環境(2)  
○村岡 敬子・中西 哲・萱場 祐一(独法土研)

- 33 16:45- 魚類透明標本を用いた海洋環境教育の実践  
○村瀬 敦宣・石丸 隆・加瀬 喜弘・河野 博・齊藤 有希(海洋大)・古瀬 浩史(帝京科学大)・宮嶋 隆行  
(葛西臨海・環境教育F)

## 口頭発表第2会場(講義室)

11月15日

午前の部 9:30-11:00

(分類, 系統, 遺伝)

- 34 09:30- タラ目とマトウダイ目の近縁性に関する形態学的検証  
森田 恭司・○今村 央・矢部 衛(北大院水産)
- 35 09:45- カタクチイワシ科タイワンアイノコイワシ属の分類学的再検討  
○畑 晴陵(鹿大院水産)・本村 浩之(鹿大総博)
- 36 10:00- アナゴ科魚類と近縁群の系統類縁関係  
○櫻井 慎大・今村 央・矢部 衛(北大院水産)
- 37 10:15- 霞ヶ浦水系で採集したフナ類の形態, 倍数性および遺伝子型  
○高田 未来美・武島 弘彦(東大大海研)・三品 達平(京大院理)・松崎 慎一郎(国環研・生物生態系セ)・  
萩原 富司(地球・人間環境 F)・諸澤 崇裕(自然環境研究センター)・井口 恵一郎(長大院水環)・立原  
一憲(琉大理)・渡辺 勝敏(京大院理)・西田 睦(琉球大)
- 38 10:30- Molecular phylogeography of the vulnerable *Rasbora baliensis* (Actinoptergii: Cyprinidae)  
○Wahyu Endra KUSUMA・熊澤 慶伯(名古屋市大)
- 39 10:45- ヌマムツの分布と遺伝的多様性  
○松岡 悠・平井 規央・石井 実(大阪府大院生命)

午後の部 14:30-17:00

(分類, 系統, 遺伝, 生物地理)

- 40 14:30- 琵琶湖・淀川水系に分布するニゴイとコウライニゴイの形態的差異  
○田中 和大・細谷 和海(近大院農)
- 41 14:45- 生息適地モデルに基づくアユモドキの歴史的分布過程の推察  
○渡辺 勝敏(京大院理)・阿部 司(ラーゴ・岡淡研)・鹿野 雄一(九大工院)・岩田 明久(京大院AA)
- 42 15:00- アシロ科およびその近縁群の比較形態学および系統分類学に関する研究  
○大橋 慎平(国立科博)
- 43 15:15- 淡水型イトヨにおける摂餌形質の平行適応進化の遺伝基盤: 日本産集団の場合  
○鈴木 悠斗(福井県立大)・森 誠一(岐阜経済大)・小北 智之(福井県立大)
- 44 15:30- ハリゴチ科魚類の系統類縁関係  
○永野 優季(北大院水産)

休憩 15:45-16:00

- 45 16:00- 琉球列島におけるスジアラの遺伝的多様性と固有性  
 ◦栗岩 薫(琉大理)・岩本 健輔(WDB 環境バイオ研)・後藤 亮(山形大理)・秋田 雄一・上原 匡人・太田 格・海老沢 明彦(沖水海技セ)・立原 一憲・今井 秀行(琉大理)
- 46 16:15- テンジクダイ科 *Rhabdamia* 属と *Verulux* 属の分類学的再検討  
 ◦吉田 朋弘(鹿大連農)・本村 浩之(鹿大総博)
- 47 16:30- ヒイラギ科イトヒキヒイラギ属の単系統性およびヒメヒイラギの2型  
 ◦鈴木 啓・木村 清志(三重大水実)
- 48 16:45- ヤエギス科, シマガツオ科およびイレズミコンニャク科の近縁性の検証  
 ◦金子 尚史・今村 央・矢部 衛(北大院水産)

11月16日

午前の部 9:30-12:15

(分類, 系統, 遺伝, 生物地理)

- 49 09:30- Sauvage が記載した琵琶湖産魚類標本を収集したフランス人 Steenackers の魚類学への貢献について  
 ◦滝川 祐子(香川大農)・吉野 哲夫(沖縄美ら島財団)
- 50 09:45- イギリス海洋調査船チャレンジャー号が1875年に瀬戸内海で採集した魚類  
 ◦波戸岡 清峰・石田 惣(大阪自然史博)
- 51 10:00- Nyström (1887)の記載した日本産魚類の再検討  
 ◦吉野 哲夫(沖縄美ら島財団)・滝川 祐子(香川大農)
- 52 10:15- タイ科キダイ属西太平洋クレードの系統地理  
 ◦千葉 悟(国立科博)・田中 文也(宮崎大院農)・今井 秀行(琉球大理)・Stephen J. NEWMAN(WA Fish & Mar Lab)・岩槻 幸雄(宮崎大農)
- 53 10:30- ミトコンドリア DNA 塩基配列と形態比較に基づくハタンボ科魚類の系統分類学的研究  
 ◦小枝 圭太(鹿大総博)・吉野 哲夫(美ら島財団)・今井 秀行・立原 一憲(琉大理)

休憩 10:45-11:00

- 54 11:00- カゴカキダイ科魚類の系統的位置に関する一仮説  
 ◦杉原 菜月・今村 央・矢部 衛(北大院水産)
- 55 11:15- Phylogenetic relationships of the family Polynemidae (Pisces: Perciformes)  
 ◦宍 世華・今村 央・矢部 衛(北大院水産)
- 56 11:30- “ナツシマチョウジャゲンゲ”と呼ばれるゲンゲ亜目魚類の分類と形態  
 ◦篠原 現人(国立科博)・高見 宗広(東海大海洋)
- 57 11:45- ヒナゲンゲの集団史から探る日本周辺の氷期レフュージア形成  
 ◦佐久間 啓(国際水研)・上田 祐二(日水研)・篠原 現人(国立科博)・濱津 友紀(北水研)・小島 茂明(東大院新領域)
- 58 12:00- ダンゴウオ科魚類の系統類縁関係の推定  
 ◦奥 香菜美・今村 央・矢部 衛(北大院水産)

午後の部 14:30-17:00

(分類, 形態, 進化)

- 59 14:30- バイカル湖に生息するカジカ上科魚類の肩帯の比較解剖学的研究  
○佐々木 嘉子・今村 央・矢部 衛(北大院水産)
- 60 14:45- 北海道熊石沖の日本海から得られたカジカ科 *Andriashevicottus* 属の1未記載種  
○鶴岡 理(函館水産高)・三宅 教平(小樽水族館)・矢部 衛(北大院水産)
- 61 15:00- スズキ目クロボズギス科魚類 *Pseudoscopelus obtusifrons* の日本からの記録  
○木村 清志(三重大院水実)・米沢 純爾(東京都島しょ農水セ)・Marcelo R. S. MELO (Univ. São Paulo)
- 62 15:15- ヘビギンポ科ヘビギンポ属 *Enneapterygius philippinus* 類似種群の分類学的再検討  
○田代 郷国(鹿大院水産)・本村 浩之(鹿大総博)
- 63 15:30- 魚類における吸盤と吸着機能をもつ鱗の表面構造の多様性  
○片山 英里・大橋 慎平(国立科博)・田城 文人(京大フィールド研)・篠原 現人(国立科博)・河合 俊郎(北大総合博)・松浦 啓一(国立科博)

休憩 15:45-16:00

- 64 16:00- ハゼ亜目魚類多様化プロセスの概要  
○昆 健志(東邦大理)・佐土 哲也(千葉中央博)・Lukas RUBER(ベルン自然史博)・佐藤 崇(国立科博)・吉野 哲夫(美ら島財団)・西田 睦(琉球大)・宮 正樹(千葉中央博)
- 65 16:15- 琉球列島産ヨシノボリ類における平行的淡水進出パターンの検証  
○山崎 曜(京大院理)・武島 弘彦(東大大気海洋研)・鹿野 雄一(九大院工)・西田 睦(琉球大)・渡辺 勝敏(京大院理)
- 66 16:30- *Engyprosopon mogkii* の雄個体の特徴と *Engyprosopon* 属の再検討  
○尼岡 邦夫(北大名誉教授)
- 67 16:45- 腹部膜状部を開閉するフグ目の稀種ウチワフグの鱗に見られる特殊な構造  
○松浦 啓一(国立科博)・金子 篤史(美ら海水族館)・片山 英里(国立科博)

## ポスター発表

(ポスターは発表初日の11月15日午前9時までに指定の場所に貼附し、2日間掲示する。  
奇数演題のコアタイムは11月15日13:30-14:30、偶数演題は11月16日13:30-14:30)

### ポスター発表 第3会場(特別展示室)

- 68 コノホシギンザメ *Hydrolagus barbouri* における網膜神経節細胞の分布  
○六車 香織・山本 直之(名大院生命農)
- 69 ニジギンザメ *Hydrolagus eidolon* (Jordan and Hubbs, 1925)はムラサキギンザメ *Hydrolagus purpureescens* (Gilbert, 1905)の新参異名  
○岩井 卓也(北大院水産)・河合 俊郎(北大総合博)・矢部 衛(北大院水産)
- 70 カグラザメより得られた日本初記録の寄生虫  
○倉島 陽(東大・院・理)・清水 俊哉・間野 伸宏(日大生物資源)・小川 和夫(目黒寄生虫館)・藤田 敏彦(科博・動物)
- 71 日本産テングエイ属 3種における形態的差異  
○三澤 遼・遠藤 広光(高知大理)
- 72 Habitat preferences of chondrichthyans in Malaysia, Indonesia and Thailand  
○加藤 雅也・Ahmad ALI (SEAFDEC/MFRDMD)・DHARMADHI (RCFMC)・FAHMI (RCO)・Chavalit VIDTHAYANON (MRC)・Annie Lim Pek KHIOK (RFBC)
- 73 ウミヘビ科ニンギョウアナゴ亜科セレバスヒレアナゴ種群の分類学的再検討  
○日比野 友亮・木村 清志(三重大院水実)
- 74 カタクチイワシ *Engraulis japonicus* の飼育下繁殖と展示の試み  
○竹嶋 徹夫・伊藤 寿茂・櫻井 徹・富永 早希(えのすい)・米田 道夫(水産総合研究センター)
- 75 日本列島のフナの集団構造  
○三品 達平(京大院理)・高田 未来美・武島 弘彦(東大大気海洋研)・井口 恵一朗(長大院水環)・西田 睦(琉球大)・渡辺 勝敏(京大院理)
- 76 福井県中池見湿地におけるアブラボテの生息状況  
○中村 あづ紗・北川 哲郎・小田 優花(近大院農)・増田 茂(中池見ぬっと)・細谷 和海(近大院農)
- 77 シャーレ法を用いた人工繁殖に際する秋産卵タナゴ類カネヒラの繁殖特性  
○北川 哲郎・小田 優花・細谷 和海(近大院農)
- 78 富山県氷見市に生息する希少種イタセンパラの集団存続可能性解析  
○山崎 裕治(富山大理)・西尾 正輝(富山大理・氷見市教委)
- 79 タビラ類における産卵母貝選択性と繁殖形質の遺伝的分化  
○林 寿樹(福井県立大)・北村 淳一(三重県博)・西尾 正輝(氷見市教委)・寺内 大貴・笠間 浩一朗・小北 智之(福井県立大)
- 80 タイリクバラタナゴに対するホルモン剤の催熟効果  
○小田 優花・北川 哲郎・中村 あづ紗・宮西 萌・細谷 和海(近大院農)

- 81 琵琶湖における淡水魚カマツカの形態変異と遺伝的集団構造  
 ◦遠藤 千晴(京大院理)・富永 浩史(関西学院高等部)・三品 達平・山崎 曜(京大院理)・武島 弘彦(東大気海洋研)・渡辺 勝敏(京大院理)
- 82 ナガレホトケドジョウにおける形態形質の地理的変異  
 ◦井藤 大樹・田中 和大・細谷 和海(近大院農)
- 83 愛媛県東部におけるナガレホトケドジョウの分布と環境要因との対応  
 ◦青木 新吾・井上 幹生(愛媛大院理工)
- 84 長野県千曲川水系支流におけるアカザの食性と餌料選択性  
 ◦藁田 孝晴(茨城大教育)・鶴田 哲也(大阪産大人間環境)・武島 弘彦(東大気海洋研)・安房田 智司(新潟大理臨海)・井口 恵一朗(長大院水・環)
- 85 東京都秋川における国内外来種アカザと在来種カジカの食性  
 ◦小川 拓(海洋大院)・片野 修(増養殖研)・横田 賢史・Carlos Augusto STRUSSMANN(海洋大)
- 86 茨城県北浦の沿岸帯におけるチャネルキョットフィッシュの摂餌生態  
 ◦遠藤 友樹・金子 誠也・猪狩 健太・加納 光樹・中里 亮治(茨城大水圏セ)・亀井 涼平(海洋大)・碓井 星二・百成 渉(東大院農)
- 87 琵琶湖固有魚類の比較ミゲノミクス:自然淘汰の痕跡と琵琶湖環境への適応  
 ◦田畑 諒一(京大院理)・武島 弘彦・平瀬 祥太郎(東大気海洋研)・西田 睦(琉球大)・渡辺 勝敏(京大院理)
- 88 三重県安濃川河口域における魚類群集の周年変化  
 ◦新田 恭大・淀 太我・吉岡 基(三重大院生資)
- 89 琵琶湖流入 17 河川における魚類の生息環境  
 ◦石崎 大介・亀甲 武志(滋賀水試)・水野 敏明・永田 貴丸・大久保 卓也(琵琶湖センター)
- 90 霞ヶ浦の堤脚水路の魚類群集構造—イネ田とハス田の比較から  
 ◦猪狩 健太・遠藤 友樹・加納 光樹(茨城大水圏セ)・金子 誠也(東大院農)
- 91 外来魚類の再検証可能な情報集積場としての自然史博物館の役割  
 ◦宮崎 佑介(神奈川県博)・村瀬 敦宣(海洋大)・瀬能 宏(神奈川県博)
- 92 岐阜県美濃加茂市におけるオヤニラミの侵入  
 ◦向井 貴彦(岐阜大地域)・淀 太我(三重大院生物資源)・谷口 義則(名城大理工)
- 93 関東地方におけるメダカ野生集団へのヒメダカ遺伝子の移入実態  
 ◦中尾 遼平・入口 友香・北川 忠生(近大院農)
- 94 ヒメダカからの遺伝子移入を検出する新規核 DNA マーカーの開発  
 ◦入口 友香・中尾 遼平(近大院農)・高田 啓介(信大理)・北川 忠生(近大院農)
- 95 隠岐諸島中ノ島浅海域の魚類相  
 ◦菊地 優(北大院水産)・須田 健太(岡部株式会社)・今村 央・矢部 衛(北大院水産)
- 96 オホーツク海北海道沖において着底トロール網により得られた底魚類  
 ◦東海林 明(京大院農)・濱津 友紀(北水研)・甲斐 嘉晃(京大フィールド研)・中坊 徹次(京大総博)

- 97 気仙沼舞根湾における小型底生魚類群集の震災後の変化  
 ◦中山 耕至(京大院農)・熊谷 洋一郎(京大地球環境)・畠山 信(NPO 森海)・田中 克(国際高等研)
- 98 沖縄本島東海岸における人工建造物建設による魚類への影響  
 ◦中村 昭夫(琉大院理工)・立原 一憲(琉大理)
- 99 “ちりめんモンスター”を用いた海洋環境教育の実践(小学生向け)  
 ◦齊藤 有希・石丸 隆・角張 ちひろ・加瀬 喜弘・河野 博・宮崎 奈穂・谷田部 明子(海洋大)
- 100 源流小水系全域におけるアマゴの空間的動態—局所プロセスの効果—  
 ◦奥谷 孝弘・福家 柔・末國 仙理・井上 幹生(愛媛大院理工)
- 101 中国地方におけるイワナ(*Salvelinus leucomaenis*)の放流個体検出の試み  
 ◦布野 晃司・細井 栄嗣(山口大学 農)・曾田 一志(島根県水技セ内水面 G)
- 102 上高地梓川でさらに進行するカワマス・ブラウントラウトの優占  
 ◦北野 聡(長野県環境研)
- 103 長野県松本盆地におけるブラウントラウトの生息状況  
 ◦柳生 将之(EAC)・大月 健二(えんどっこ)・美馬 純一(EAC)・北野 聡(長野県環境研)
- 104 東南極アデリーランド沖における *Electrona antarctica* (ハダカイワシ科)の空間分布  
 ◦藤井 健太郎(海洋大)・谷村 篤(国立極地研)・茂木 正人(海洋大)
- 105 若狭湾で採集されたサケガシラ属魚類  
 ◦田城 文人(京大フィールド研)・佐藤 崇(国立科博)・鈴木 啓太(京大フィールド研)・佐藤 圭一(美ら島研セ)
- 106 アカグツとヘリグロアカグツの分類学的再検討  
 ◦高田 義紘(近大院農)・甲斐 嘉晃(京大フィールド研)・柳下 直己(近大院農)
- 107 南九州と琉球列島における標本に基づくイトウダイ科アカマツカサ属魚類相  
 ◦江口 慶輔(鹿大水産)・本村 浩之(鹿大総博)
- 108 雄物川水系におけるトミヨ属雄物型 2 地域集団の二次的接触  
 ◦高橋 洋(水大校)・鶴田 哲也(大阪産大人間環境)・後藤 晃(北の川魚研)
- 109 震災津波により形成されたイトヨ新規集団および既存集団における形態学的研究  
 ◦久米 学・西田 翔太郎・森 誠一(岐阜経済大)
- 110 北太平洋産ユメカサゴ属 3 種の形態的特徴と分布 (予報)  
 ◦吉川 茜(京大農)・甲斐 嘉晃(京大フィールド研)・中坊 徹次(京大総博)
- 111 水槽内におけるユメカサゴの産卵および初期発育  
 ◦三森 亮介(葛西水族園)
- 112 西インド洋から得られたフサカサゴ科エボシカサゴ属の 1 未記載種  
 松沼 瑞樹(西海水研)・◦本村 浩之(鹿大総博)
- 113 キホウボウ科の *Satyrichthys kikingeri* はバケキホウボウ *Satyrichthys laticeps* の新参異名  
 ◦河合 俊郎(北大総博)

- 114 浅海岩礁域におけるヒラスズキ *Lateolabrax latus* の出現および摂餌生態  
 ◦新垣 誠司(九州大天草臨海)・Neil HUTCHINSON(JCU SIN, TropWATER)・渡慶次 睦範(九州大天草臨海)
- 115 フェダイ科フェダイ属ベンガルフェダイ類似種群の分類学的再検討  
 ◦津崎 兼士・田中 文也(宮崎大院農)・岩槻 幸雄(宮崎大農)
- 116 タイ科ヘダイ属魚類 *Rhabdosargus haffara* の分類学的再検討  
 ◦田中 文也(宮崎大院農)・岩槻 幸雄(宮崎大農)
- 117 インド洋セーシェルから採集されたフェフキダイ科メイチダイ属の1未同定種 *Gymnocranius* sp.  
 ◦三木 涼平・田中 文也(宮大院農)・岩槻 幸雄(宮崎大農)
- 118 沖縄島のタイドプールに優占するスズメダイ科魚類2種, ルリスズメダイ *Chrysiptera cyanea* とネズスズメダイ *C. glauca* の年齢・成長, 成熟について  
 ◦蒲田 なつみ(男鹿水族館)・立原 一憲(琉大理)
- 119 串本町沿岸で見られるベラ科魚類  
 ◦小寺 昌彦(串本海中公園)
- 120 館山湾におけるベラ科カミナリベラの生活史と性転換  
 ◦下光 利明・須之部 友基(海洋大館山)
- 121 アイナメ属雑種の形態的特徴  
 荒谷 美咲(北大水産学部)・宗原 弘幸(北大FSC 白尻)
- 122 北太平洋および北極海に生息するカジカ科魚類の不凍タンパク質活性  
 ◦山崎 彩(北大院環)・花田 祐一・津田 栄(北大院生命)・宗原 弘幸(北大FSC)
- 123 九州産カジカの遺伝的集団構造の解析  
 ◦菅野 一輝・栗田 喜久・鬼倉 徳雄(九大院農)・中島 淳(福岡県保環研)
- 124 生活史型の異なる姉妹種(カンキョウカジカおよびキビレカジカ)における遺伝的集団構造の違い  
 ◦塚越 英晴(岩手大三陸水産研究セ)・横山 良太(建設環境研)・後藤 晃(北の川魚研)
- 125 日本初記録のタウエガジ科魚類 *Dictyosoma tongyeongensis*  
 ◦甲斐 嘉晃(京大フィールド研)・池口 新一郎(のとじま水族館)・金 眞久(釜慶大)・中坊 徹次(京大総博)
- 126 “ナツシマチョウジャゲンゲ”と呼ばれるゲンゲ亜目魚類の帰属について  
 ◦高見 宗広(東海大海洋)・篠原 現人(国立科博)
- 127 ダンダラトラギスのハレム雌除去実験: 独身雄の配偶者獲得戦略と逆方向性転換  
 ◦小木曾 恵太・須之部 友基(海洋大館山)・鈴木 祥平(琉球大瀬底)・桑村 哲生(中京大国際教養)
- 128 干潟のハゼ類によるヨコヤアナジャコの巣穴利用の季節変化  
 ◦邊見 由美・岩田 洋輔・伊谷 行(高知大院教育)
- 129 ボウズハゼ亜科魚類の淡水両側回遊  
 ◦渡邊 俊(日大生物資源)・飯田 碧(琉球大)・塚本 勝巳(日大生物資源)

- 130 側線系の“完成”は意外と遅い ～カワヨシノボリ *Rhinogobius flumineus* でのケーススタディ  
 ◦中江 雅典(国立科博)・倉島 陽(東大院理)・片山 英里(国立科博)
- 131 ダムに陸封されたルリヨシノボリは、両側回遊に戻れるのか  
 ◦平嶋 健太郎(和歌山自然博)
- 132 ハゼ科カスリモヨウベニハゼの配偶システムと幼時雌雄同体現象  
 ◦福田 和也・須之部 友基(海洋大館山)
- 133 日本沿岸域におけるタビラクチの系統地理学的検討  
 ◦松井 彰子(京大フィールド研)・乾 隆帝(山口大院理工)・山下 洋(京大フィールド研)・中山 耕至(京大院農)
- 134 色彩保存標本 赤・黄系色彩保存研究  
 ◦岩坪 洸樹・本村 浩之(鹿大総博)
- 135 画像解析に基づく魚類の形態学的分類の自動化  
 ◦鈴木 勇也(北大院情報)
- 136 Introduction of Marine Fish Resource Bank of Korea (MFRBK)  
 ◦Jin-Koo KIM (Pukyong Nat. Univ.), Jung-Hwa RYU (Ryujunghwa Mar. Res. Inst.), Soo-Jeong LEE, Young-Sun SONG, Se-Hun MYOUNG, Seung-Eun BAE, Hyo-Jae YU, Woo-Jun LEE and Sang-Yun HAN (Pukyong Nat. Univ.)
- 137 サンゴ礁に生息するヒフキアイゴのペア形成・行動圏・空間分布  
 ◦名波 敦(水研セ西海石垣)
- 138 沖縄島周辺に生息するタチウオ属2種の性的二型  
 ◦小泉 翔平(琉大院理工)・小枝 圭太(鹿大総博)・立原 一憲(琉大理)
- 139 山梨県鰍沢河岸跡より出土したマグロ骨の同定  
 ◦武藤 文人・花森 功仁子(東海大海洋)・植月 学(山梨県立博物館)・石川 智士(総合地球環境学研究所)
- 140 ミトコンドリアゲノム全長配列によるカレイ目魚類の網羅的系統解析  
 ◦佐藤 崇(国立科博)・宮 正樹(千葉中央博)・西田 睦(琉球大)
- 141 日本産デンベエビラメ *Cynoglossus lighti* Norman, 1925 の分類学的再検討(ウシノシタ科イヌノシタ属)  
 ◦内藤 大河・遠藤 広光(高知大理)
- 142 シツボウフグ属2種の育成  
 ◦園山 貴之・土井 啓行・石橋 敏章(下関水族館)・松浦 啓一(国立科学博物館)

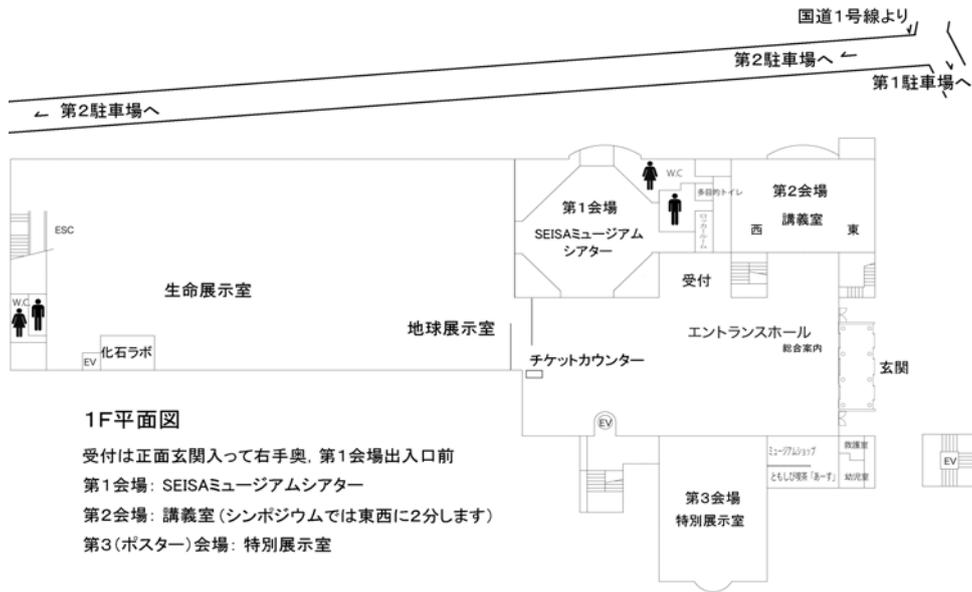
## 高校生研究発表 第3会場(特別展示室)

(11月15日の10:00までにポスターを指定の場所に貼附し、二日間掲示する。コアタイムは11月15日13:30-14:30と11月16日12:30-13:45。11月16日14:00から第3会場で表彰式を行う。11月16日17:00までにポスターを撤去する。)

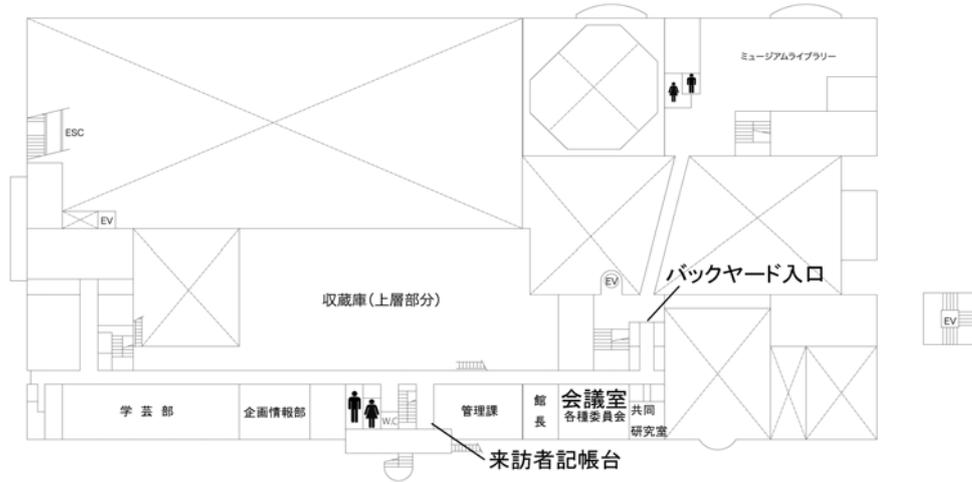
- HP01 赤白メダカを用いたメダカの性転換に関する実験  
○池田 星哉・佐々木 啓将・上原 静香・進藤 明穂(神奈川県立神奈川総合産業高等学校)
- HP02 迷路実験におけるキンギョの学習能力  
○吉野 友衣奈・露崎 れな(千葉県立長生高等学校)
- HP03 ハタ科魚類における体表模様の変化機構に関する研究  
○佐藤 初(高槻高等学校)
- HP04 サケ科イワナ属の北海道道東産アメマス(*Salvelinus leucomaenis leucomaenis*), 長野県産ヤマトイワナ(*S. l. japonicus*), 島根県産ゴギ(*S. l. imbricus*)における mt-DNA cyt-b と NADH6塩基配列全領域からの系統  
○富士野 建人・井原 一哉・川本 晟司・仲田 大悟・深津 瑛俊・松田 空(成蹊高等学校)
- HP05 好適環境水における硬骨魚類の生理学的変化の解明  
○瀬川 和磨・梅澤 翔・小林 千哲(福島県立福島高等学校)
- HP06 揖斐川水系支流におけるイワナとアマゴの属間雑種の解析  
○後藤 暁彦・丹羽 大樹・三輪 直生(岐阜県立岐阜高等学校)

# 会場配置図(神奈川県立 生命の星・地球博物館)

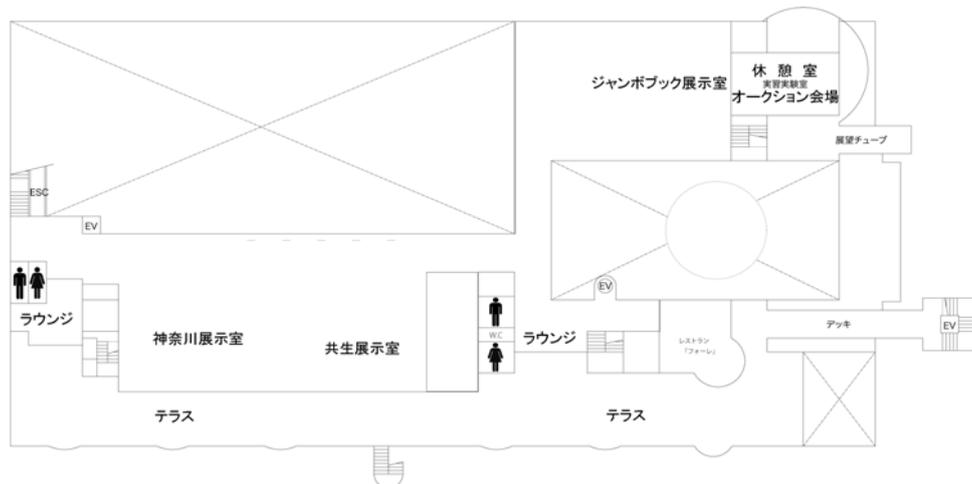
## 1F(受付, 第1～第3会場)



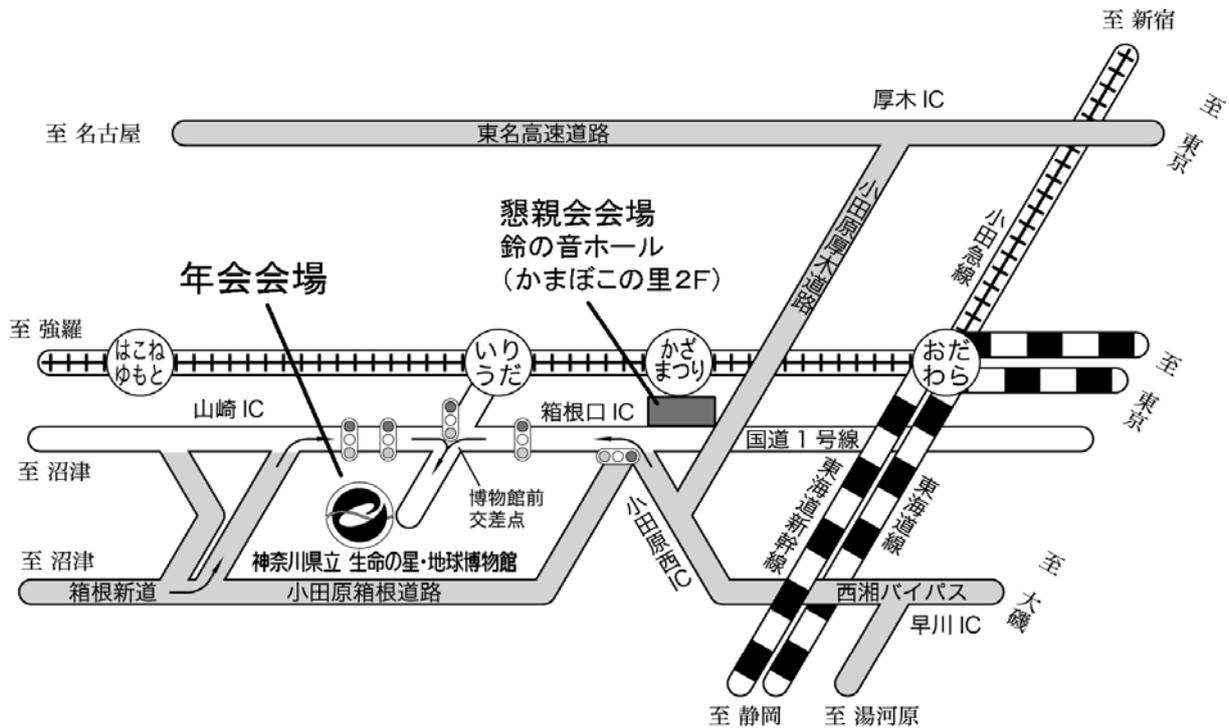
## 2F(会議室, 各種委員会, 一般の入場はできません)



## 3F(休憩室, オークション会場)



# 2014年度日本魚類学会年会会場および懇親会会場へのアクセス



## 年会会場(神奈川県立 生命の星・地球博物館)へのアクセス

### 電車

小田原より箱根登山鉄道にて、「入生田(いりうだ)」駅から徒歩3分  
小田急の一部が乗り入れています

### 自家用車

西湘バイパス・小田原厚木道路から箱根口インターで国道1号線へ → 2つ目の信号を左折  
箱根新道山崎インターで国道1号線へ → 3つ目の信号を右折

※ 駐車場のご利用は営業時間(9:00~16:30)に限られます

※ 箱根の紅葉シーズンにつき平日でも道路が大混雑します。公共交通機関のご利用をお奨めします

## 懇親会会場(鈴の音ホール, かまぼこの里2F)へのアクセス

第2駐車場から貸し切りバスを運行します(17:30分ごろ発車予定)

※第2駐車場はエントランスの反対側にあります

### 電車

箱根登山鉄道にて小田原方面ひと駅「風祭(かざまつり)」駅前

### 徒歩

年会会場から約1.2km